

53

経済統合と地域主義

SUPPORT

1 保護主義と地域主義の動き

- (1) 多国間交渉…GATT, WTO は多くの国が一斉に交渉を行うことが原則
→ 保護主義の台頭…例外規定の利用で報復措置, 対抗措置の発動
- (2) 地域主義の台頭…近隣諸国間で自由貿易地域をつくろうとする動き
→ 関税や輸出入の規制を撤廃するなど

2 ヨーロッパの経済統合への動き

- ・ヨーロッパ…狭い地域に多数の小国, 経済的劣位→統合のメリット

1952	①	欧州石炭鉄鋼共同体	(ECSC) 発足
1958	②	欧州経済共同体	(EEC) 発足
	③	欧州原子力共同体	(EURATOM) 発足
1967	④	欧州共同体(EC)	成立…ECSC, EEC, EURATOM の統合
1992	⑤	マーストリヒト	条約締結
1993	⑥	欧州連合	(EU) 発足
1999		単一通貨・⑦ ユーロ	導入

STEP ヨーロッパが EU の発足にまでいたった歴史的・地理的背景について簡単に説明しなさい。

- ⑧ 歴史的に複雑で小さな国が多い。狭い国土・限られた資源や市場, 少ない労働力など大國に対抗する上で不利な条件をもっていたため。

3 地域統合への動き

- ・アジア・太平洋地域…「世界の成長センター」

発足年	組織名
1967	⑨ 東南アジア諸国連合 (ASEAN)
1989	⑩ アジア太平洋経済協力 (APEC)
1994	⑪ 北米自由貿易協定 (NAFTA)
1995	⑫ 南米南部共同市場 (MERCOSUR)
2018	⑬ 環太平洋パートナーシップ (TPP) 協定

4 今後の展望

- (1) 多国間交渉の困難…二か国間あるいは国・地域間での経済交渉が活発
- (2) ⑭ 自由貿易協定 (FTA) …⑮ 関税 撤廃などによる自由貿易
- (3) ⑯ 経済連携協定 (EPA) …自由貿易に加えて, 労働力や資金, 情報の行き来などの分野にまで広げた協定
→ FTA も EPA も WTO の「無差別」貿易の原則の例外
→ 市場閉鎖が強まるとかつてのブロック経済化への危険性をともなう

① 戦争で荒廃したヨーロッパ諸国は, 東西対立によって分断され一定の緊張状態にもあり, 平和構築と戦後復興という大きな課題を抱えており, ①の発足は, これらの課題を解決するためであった。

④ 域内での関税撤廃や共通の農業政策を実現させた。

⑦ 現在, ギリシャなど一部の加盟国の財政悪化により⑦自体の信頼が大きくゆらいでいる。

⑬ 2016年に参加12か国が署名。2017年アメリカが離脱表明。2018年アメリカを除く11か国で署名, 発効。

⑯ 資本や労働, 知的財産権の取り引きも含まれる。

NOTE

1 保護主義と地域主義の動き

(1) GATT や WTO の場での多国間交渉の行き止まりの原因を生徒に考察させる。そして、こうした混迷は国際経済以外のどの分野で見られるかを問いたい。環境問題や平和など、解決の道筋が見えない課題について考える時間をとって出口なき問いへ挑戦させたい。

(2) 上記の行き止まりに対して、解決の突破口となりえるのが、二国間交渉を基本とした協定の締結から、二国間を多国間に拡大していく動きである。この視点から TPP 交渉をとらえ、WTO の理念と比較検討することも有意義となる。

2 ヨーロッパの経済統合への動き～4 今後の展望

・ヨーロッパ・EU を中心として、経済統合にいたるまでの経緯を押さえる。その際に、この経済統合の背景となった理由についてもふれたい。国の状況や対外経済戦略、歴史的・文化的・政治的要因などの視点を含めて解説したいところである。

・経済統合にいたる条件には、できる限りの同質性が求められよう。同質性が高いほど結び付きは強固なものとなり、実効性も高まるといえる。逆に異質性が高ければ、名目上の組織にならざるをえない。近年の EU の不協和音も加盟国の増加により高まってきたといえる。地理的に近いという理由だけで手を携えるのは難しい。これは生徒においても、友人関係などを例にとるとわかりやすい。

・異質性があっても貿易関係において相互補完性が高ければ、統合に向かう可能性がある。ここに平和関係構築の鍵があると想定し、対立関係を解消する方法について生徒に考えさせたい。互いに不足を補う関係から必要が生じ、長年敵対関係にある国同士であっても、経済的な必要を満たせるようなくみを作れば、融和に向けて一步を踏み出せる可能性がある。生徒の柔軟な発想を引き出したい。

・FTA と EPA の違いを教科書 p.187 注③で示しているが、FTA の延長線上に EPA があるという視点を生徒にもたせたい。FTA をより円滑に実施し、幅広い経済関係を構築するためヒト(労働)・カネ(投資)や、ソフト関連などについてのルールづくりをするのが EPA である。

TRY

Q 現在、ユーロ自体の信頼がゆらいでいる理由を説明しなさい。

EU 加盟国のなかで、(PIGS といわれる)ポルトガル、イタリア、ギリシャ、スペインで財政状況が悪化して債務危機が発生したため。とくにギリシャの財政状況は悪く、ユーロ全体への不信感の増大につながった。

54

南北問題とその課題

1 南北問題の背景と展開

- (1)南北問題…① **先進国** と② **発展途上国** との経済格差の問題
- ・地球上の人口の8割超え…② **発展途上国** (南半球に多い)
 - ・経済活動の約8割…① **先進国** (北半球に多い)
- (2)③ **モノカルチャー** 経済…④ **一次産品** 依存の経済構造
→農業分野での技術革新…先進国の大規模農業展開で競争力を失う

2 発展途上国の努力

- (1)新しい国際経済体制の模索
- ・⑤ **国連貿易開発会議** (UNCTAD) 発足(1964年)
 - ・GATTで自由貿易の例外措置(一般特惠関税など)認められる
 - ・⑥ **新国際経済秩序** (NIEO) 樹立宣言(1974年)
- (2)冷戦下での援助…米ソからの軍事援助中心
→⑦ **開発独裁** の発生…国民の権利の抑圧, 政治的不安定の要因

STEP ⑦について簡単に説明しなさい。

- ⑧ **第二次世界大戦後に多くの独立国が誕生したアジアを中心に見られた, 国民の政治参加を制限し, 経済開発を重視した体制。**

3 途上国の試み

- (1)③ **モノカルチャー** 経済からの脱却…工業化を試みる
- ・⑨ **輸入代替** 工業化政策…先進国との競争に勝てず, 多くが失敗
 - ・⑩ **輸出指向型** 工業化政策…自国の経済的有利を活かした生産
→低い労働コスト, 労働集約的な工業分野に⑪ **特化**
- (2)経済成長を実現した成長地域群
- ・新興工業経済地域(⑫ **NIES**)…アジア⑫ **NIES** など
 - ・⑬ **BRICS** …近年, 経済発展がめざましい国々

4 先進国からの援助

- (1)援助の種類
- ・⑭ **政府開発援助** (ODA) と民間援助
 - ・資金援助と技術援助(⑮ **技術移転**)
- (2)先進国の対応
- ・⑯ **経済協力開発機構** (OECD) 発足(1961年)
→下部機関⑰ **開発援助委員会** (DAC) による援助
 - ・近年, 人間の基本的なニーズ(⑱ **BHN**)にもとづく援助要請
→⑲ **国連開発計画** (UNDP)…⑳ **人間開発指数** (HDI)をもとに

SUPPORT

- ④天然の産物で高度の加工がなされていない農林水産物や鉱物資源のこと。具体的には, ガーナのカカオやマレーシアのゴムなど。
- ⑥天然資源に対する恒久主権, 交易条件の改善, 多国籍企業に対する規制など。
- ⑨輸入に頼っている工業製品の自国生産。
- ⑩この政策は, 多国籍企業の世界戦略や販売力などと結びつくと, 実現性が増してくる。
- ⑫韓国・シンガポール・香港・台湾のアジア⑫など。
- ⑬ブラジル・ロシア・インド・中国・南アフリカの頭文字から。
- ⑭日本のODAは, 金額は世界上位もGNI比における目標値(0.7%)に及ばず, 贈与の度合い(グラントエレメント)も低い。
- ⑱生活水準を基礎におき, 最低限の衣食住や設備, 基本的サービスに対するニーズ。

NOTE

1 南北問題の背景と展開

- (1) 発展途上国やその国民の生活を映像などで紹介するのが最も効果的である。
- (2) モノカルチャー経済について、国名と一次産品の組み合わせを示すだけでなく、ある産品が生徒の生活にどういった関係があるのかを推測させたい。

2 発展途上国の努力

- (1)・(2) GATT の目指す自由貿易体制が途上国の発展の妨げとなることは、日本国内の所得格差が自由主義的政策によって拡大したことによってもわかる。途上国は UNCTAD を結成したが、当初は援助よりも貿易を求めた。しかし、ドルショック・オイルショック以降の状況変化により、援助も貿易も求めた。先進国の経済が上下すると、その影響は途上国の経済をさらに大きく直撃することを伝えたい。

3 途上国の試み

- (1) 途上国の経済発展には国際通貨・ドルが不可欠である。しかし外貨は稼げず投資もされない状況を打破するためには工業化を図る必要があった。そこで輸入を減らすか、輸出を増やすか、いずれかのための産業振興を図る必要があった。ここはどちらを選択するか、理由とともに生徒に考えさせたい。
- (2) アジア NIES については発展にともない人件費が高騰しつつあるが、今後どのような戦略が考えられるか、またアジア NIES に代わりどのような国がその役割を担うようになってきたのかを尋ねたい。また、BRICS 諸国について、どのような現状にあるのかふれていきたい。

4 先進国からの援助

- (2) 援助は金額などの量の問題が優先されてきたが、質の問題がクローズアップされるようになった。BHN は個人のニーズだけでなく、ライフラインや医療、教育、福祉などの社会的なニーズもある。こうしたニーズの充足状況を指標にしたものが HDI である。

TRY

Q 発展途上国の分類(すでに先進国扱いされている国・地域も含む)の表の空欄を埋めなさい。

区分	概要と国・地域
[A 新興工業 経済地域(NIES)]	輸出産業育成による成長。アジア NIES…[B シンガポール], 韓国, 香港, 台湾。他にギリシャ, メキシコ, ポルトガルなど
BRICS	高度成長中の5か国。B=[C ブラジル], R=[D ロシア], I=[E インド], C=[F 中国], S=[G 南アフリカ]
産油国	巨額のオイルマネーを保有。カタール, アラブ首長国連邦など
後発発展途上国(LDC)	発展から取り残されている国々。アジア・アフリカ諸国に集中

A 新興工業 B シンガポール C ブラジル D ロシア
E インド F 中国 G 南アフリカ

SUPPORT

①鉄鋼や機械、自動車、さらに半導体など技術集約的産業で主に起こった。

1 日本経済の自由化のあゆみ

- (1) 1950年代～…欧米との間で① **貿易摩擦** 発生
- ・1952年…② **国際通貨基金** (IMF)
 - ③ **国際復興開発銀行** (IBRD)加盟
 - ・1955年…関税と貿易に関する一般協定(④ **GATT**)加盟
- (2) 1970年代～…① **貿易摩擦** 激化
- ・1964年の⑤ **経済協力開発機構** (OECD)加盟など段階的に
 - ⑥ **貿易** の自由化と⑦ **資本** の自由化を進めた
 - ・⑥ **貿易** の自由化…④ **GATT** 12条国から11条国へ(1963年)
 - ・⑦ **資本** の自由化…IMF14条国から8条国へ(1964年)
 - ・輸出を急激に伸ばす…「集中豪雨的輸出」→欧米に打撃
 - ① **貿易摩擦** 激化
- (3) 1980年代～…アメリカが日本の輸入量が少ないことや国内市場の閉鎖性を鋭く指摘
- 米国との⑧ **経済摩擦** へと激化
- (4)日米間の協議
- ・⑨ **日米構造** 協議(1989年)…日本の内外価格差や流通制度の非効率性、排他的な商慣行が問題とされた
 - ・⑩ **日米包括経済** 協議(1993年)…日本の経常収支黒字縮小やアメリカ財政赤字削減など構造的な問題、自動車や保険などの個別分野

2 1990年代以降の日本経済

- ・1990年代、アメリカ中心に⑪ **IT** 革命起こる
- グローバル・スタンダードの導入
- 金融・保健分野などサービス産業の自由化、諸規格の統一など
- ・当時の日本…バブル崩壊後の「⑫ **失われた10年**」のさなか
- 外資系企業の進出→日本の大企業の合併など
- 海外企業との大競争時代へ
- ・1990年代以降の世界…⑬ **IT** と新しいサービスの時代

3 日本の課題

- ・グローバル化への波…日本が誇ってきた高いものづくりの技術とバランスよく進展させていくことが課題
- ・諸外国との交渉…農業問題が争点。日本の農業と食料自給のあり方を議論する必要

NOTE

1 日本経済の自由化とあゆみ

(4)日本は外圧により市場開放を進めていったという側面があることも押さえない。

2 1990年代以降の日本経済

・90年代は米で「IT革命」が進展し、「ニューエコノミー論」が主張された。米経済は好調を維持する一方、日本経済は低迷、経済摩擦は影をひそめたという点に注目させる。

・米の好景気の背景は、基本的には「バブル」であり、その崩壊により不況へ転じた。しかし次の「バブル」により回復し、また崩壊を繰り返すという循環にあった。自由化の流れは変わらず、特に金融分野で、「デリバティブ商品」が次々と開発されるなど、活況を呈した。しかし、リーマン・ショックで深い傷を負う原因ともなったという点に留意させる。

3 日本の課題

・日本の課題について資料を提示して、ものづくりと金融、グローバル化と自由化、農業と食料など、考えさせる題材がいくつもある。正義と公平・公正の観点から討論の柱を考えたい。

TRY...

Q 日本がTPP協定に参加するメリット・デメリットを説明しなさい。

メリット：工業製品の輸出が拡大すること、食料品や原材料の輸入コストが下がること(特に農産品や食料品価格が下落することが予想される)、海外への投資が促進されること。

デメリット：輸入品に押され競争力の弱い国内産業のなかには衰退する分野が出てくること(特に第一次産業)、安全基準や製品規格が共通となることでこれまでの品質が維持できなくなること。